

第55回熊本県芸術文化祭前夜祭

第41回熊本県芸術功労者
25年度荒木精之記念文化功労者 顕彰式

秋の芸術文化祭の幕開けとなる熊本県芸術文化祭前夜祭が九月十一日、熊本市上通町のホテル日航熊本で開催された。

前夜祭では熊本県芸術功労者と荒木精之記念文化功労者の顕彰式が行われた。午後六時、約八百八十九名の出席を得、県文化協会



専務理事の佐々瑞雄氏の司会進行で幕を上げた。

初めに吉丸良治県文化懇話会代表世話人・県文化協会会長が挨拶。「昨年よりも多くの皆さんにご参加頂き、感謝します。長年にわたり中核的に活動された功労賞の皆さん、地域文化に貢献された荒木精之賞の皆さんに心から感謝します。」

これからの熊本の文化を支えていただきたい。恒例の芸文祭は二百六十二団体に参加頂き、県下各地で総合文化を展開されることは嬉しいことです。今年からこども芸術祭を実施し、第一回が天草で関係各位のご努力で大変すばらしい舞台でした。こども達に是非とも熊本の文化を受け継いで欲しい。来年は人吉で開催、力を合わせて頑張っていただき。また、芸術文化祭のオープニングセレモニーで、神楽とダンスのコラボレーション『頂上現象』にも足を運んでください」と述べた。

次に来賓の蒲島郁夫県知事の代理で小野泰輔副知事が「受彰者の方々に御礼とお祝い申し上げます。先日、子ども芸術祭で上天草市の『がたきり踊り』をはじめて拝見し感動しました。干拓の作業を踊りの動きにしている、グローバル時代の

中にも熊本の地域性がはっきりしていて、これこそ地域の宝です。文化を次世代へつなぐことが重要で、皆さんと一緒に努力していきたい」と祝辞述べられた。

次に幸山政史熊本市長の代理で牧慎太郎副市長が「前夜祭の開催に心よりお祝い申し上げます。顕彰者の皆様にお祝い申し上げますと共に、これまで熊本文化の発展にご功績いただき感謝いたします。熊本市は政令指定都市へ移行して二年目、わくわく都市という姿を目指しています。これには創造的なまちづくりが必要で、芸術文化こそが核になります。皆様が中心になって活躍して欲しい」と祝辞を述べられた。

十三氏を熊本県
芸術功労者に顕彰

続いて、長年の芸術活動に功績のあった個人に贈られる熊本県芸術功労者十三

氏への顕彰式が行われた。

熊本県文化懇話会選考委員長の山崎崇伸氏が「昭和四十八年に文化懇話会十周年を記念に設けられた賞。八十歳を超え、芸術活動が顕著で後進の指導育成にあたられ、県内在住の方が候補者として二百三名おられ、その中から、十四名が推薦され全員を選考したが一名が辞退されたので十三名を功労者を選びました」と報告。

今年度の功労者十三名は次のとおり。

- 木村隆之(六〇) 文学。吉田豊(六〇) 短歌。星永文夫(六〇) 俳句。宮本美致代(六九) 川柳。豊田大徳(六〇) 肥後狂句。春口光義(六〇) 洋画・版画。福永幸夫(八二) 工芸。徳永巢鶴(八〇) 書道。徳永延峰(八二) 吟詠・詩舞。末武有(八二) 能楽。稲田清華(八五) 茶道。後藤みさる(八〇) 華道。中山硯甫(八二) 華道。以上十

三名。

紹介され登壇した芸術功
労者十三名には吉丸良治県
文化懇話会代表世話人より、
それぞれに顕彰状と盾が贈
られた。功労者は拍手で
名誉会員に迎えられ、会場
からお祝いの花束が贈られ
た。

功労者を代
表して、星永
文夫氏が「昭
和の激動の中
でそれぞれの
道を磨いてき
たが、まだ道
半ば、もっと
努力して、地
方文化に関わ
ていきたい。
これからもこ
支援の程おね
がいします」
と謝辞を述べ
た。この後、
恒例の記念撮
影が行われて
式を終えた。



第41回熊本県芸術功労者顕彰式

荒木精之記念文化 功労者に三氏を顕彰

地域文化・専門分野に貢
献した個人を顕彰する荒木
精之記念文化功労者には三
氏が顕彰状と盾を受けた。
同選考委員長の山崎崇伸
氏が「この賞は平成十八年

に制定、選考基準は熊
本県に在住し、永年に
わたって地域社会の文
化振興に著しく寄与し
た個人、三名以内となっ
ており、四氏を慎重に
選考した結果三氏が選
ばれた。」と選考経過
を報告した。今年度の
顕彰者は次のとおり。

三浦信之(昭和十一
年生、文化一般) 宇土
市「宇土の文化を考
える市民の会」を立ち

上げ代表となり、宇土市の
文化の向上に貢献。

木山勝彦(昭和十九年生、
工芸) 苓北町「天草陶磁
器」が国の産業経済大臣の
伝統的工芸品に指定される
よう貢献。

工藤勇壹(昭和十六年生、
洋楽) 熊本市「合唱団の指
揮者をはじめ各音楽コンク
ールなどの審査員を務め音楽
の普及に貢献。以上の三名。

三氏が紹介され登壇、吉
丸良治県文化協会会長から



平成25年度荒木精之記念文化功労者顕彰式

場に響き、受賞者を祝福し
た。

芸術文化祭の スタートを祝し乾杯

小堀富夫県文化協会・文
化懇話会名誉会長が文化懇
話会五十周年記念式典で特
別功労賞を受賞されたお礼
を述べられた後「芸術文化
祭が盛大に行われるよう、
ご顕彰の先生方はじめご来
会の皆様のご健勝を祈念
し高らかに乾杯」の発声で、
懇談、祝宴に移った。芸術
の秋の祝宴にふさわしく、
会場はお祝いの笑顔や芸術
の話題と共に華やいだ雰囲
気につつまれ、熊本県芸術
文化祭のスタートにふさわ
しい宴となった。

橋元俊樹県文化協会副会
長の三本締めでなごり尽き
ない宴の幕を降ろし散会し
た。

(記…県文化協会理事・堀田清記)

(写真撮影…服部和洋)